

再評価項目調書

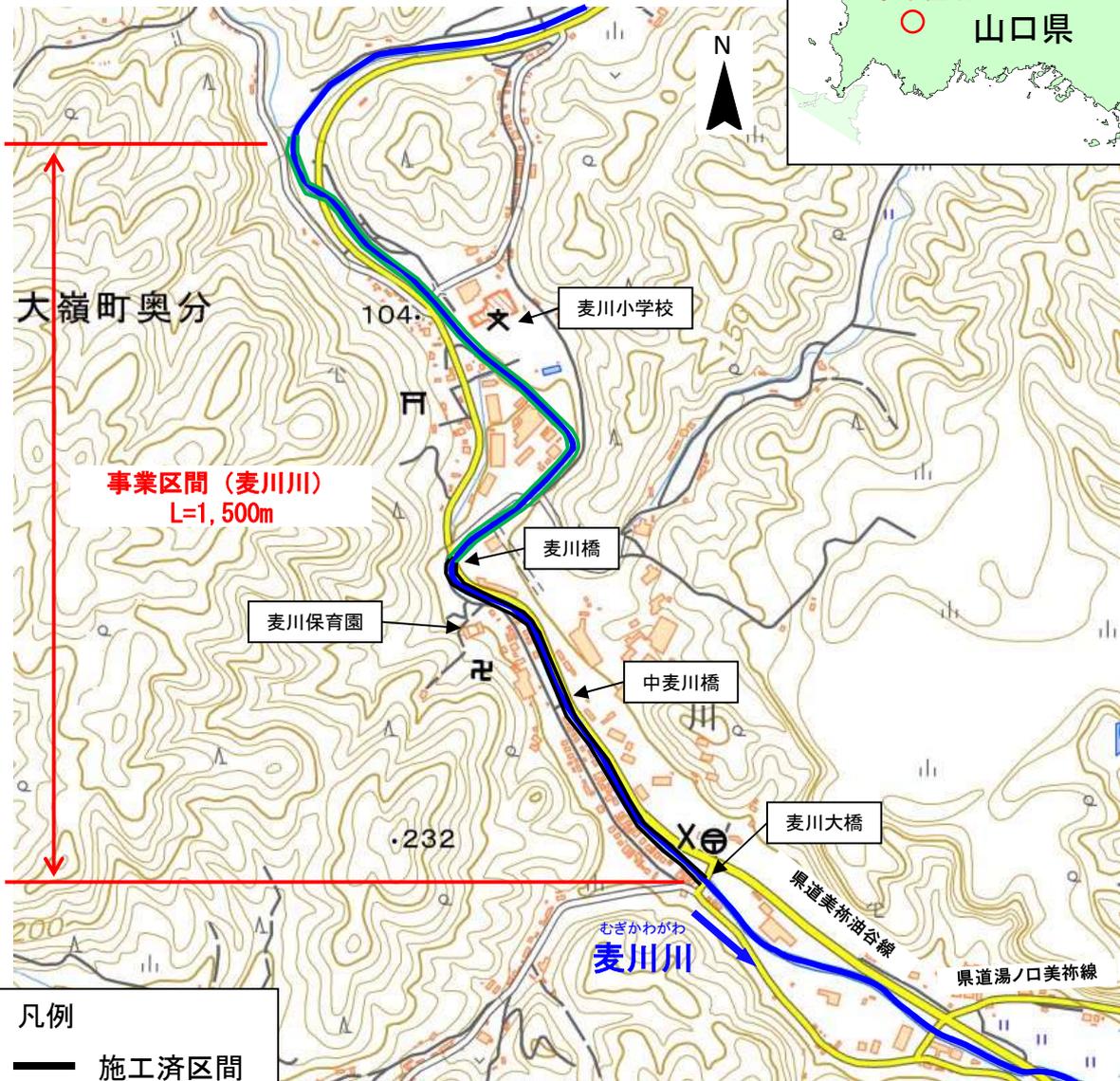
再評価実施要件		○ 事業採択後 () 年 ● 再評価後 (5 年) ○ その他 ()						
1 事業 概要	事業名	むぎかわがわ 麦川川 広域河川改修事業						
	事業場所	おおみねちやうおくぶん 美祢市大嶺町 奥分 地内						
	事業主体	山口県						
	事業期間	《 前回評価 平成 29 年 時 》 平成 25 年度 ~ 令和 14 年度 《 令和 14 年度 》 (西暦 2013 年度 ~ 西暦 2032 年度 《 西暦 2032 年度 》)						
	総事業費 (内用地補償費)	≪ 865 百万円 ≫ 865 百万円 (156 百万円)	既投資額 (内用地補償費)	433 百万円 (109 百万円)	進捗率 (用地補償費)	50 % (70 %)		
	事業目的	麦川川は、美祢市於福町にある雁飛山を源とし、美祢市大嶺町西分祖父ヶ瀬付近で厚狭川に合流する流域面積22.7km ² 、流路延長11.1kmの二級河川である。 本事業区間は、洪水に対する安全度が低く、平成15年7月の豪雨や平成22年7月の豪雨等により浸水被害が起きていることから、河川改修を実施し、浸水被害の軽減を図る。						
事業内容	延長L=1,500m (河道掘削工、護岸工、橋梁工) 洪水対策の整備規模 年超過確率1/20							
事業効果	年超過確率1/20の洪水時における浸水被害防止効果 浸水面積 8ha → 0ha 被害額 804百万円 → 0百万円 平成22年7月豪雨の洪水時における浸水被害防止効果 浸水戸数 20戸 → 0戸							
2 再評価の 視点	(1) 社会経済情勢の変化	社会経済情勢の変化に伴う必要性の変化	<p>前回評価時に比べ、人口や世帯数は減少しているものの、平成15年、平成22年に甚大な浸水被害を受けていることから、再度災害の防止のため、引き続き治水対策を進めていく必要がある。</p> <p>【状況変化(国勢調査)】 《美祢市大嶺町奥分地内》 ○人口 : 0.88倍 (751/851人) <R2/H27> ○世帯数 : 0.90倍 (331/367世帯) <R2/H27> 《参考:県全体》 ○人口 : 0.96倍 (1,342/1,405千人) <R2/H27> ○世帯数 : 1.00倍 (599/599千世帯) <R2/H27></p>				中項目評価	大項目評価
		関係市町及び地元の意向	<p>当該事業は、自治会、漁業協同組合、河川愛護団体等の地元関係者や学識経験者等により構成する川づくり検討委員会です承されている。また、これまでの浸水被害の経験から、地元自治体である美祢市や地元住民からの被害軽減に対する要望が強い。</p>				中項目評価	大項目評価

2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果 分析等	(単位：百万円)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th>前 回</th> <th colspan="2">今 回 (再々評価)</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>(基準年：H29)</th> <th colspan="2">(基準年：R4)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <th>全体事業</th> <th>全体事業</th> <th>残事業</th> <td></td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center;">便益 (B)</td> <td>①一般資産被害軽減便益</td> <td style="text-align: center;">395</td> <td style="text-align: center;">839</td> <td style="text-align: center;">380</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②農作物被害軽減便益</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③公共土木施設等被害軽減便益</td> <td style="text-align: center;">667</td> <td style="text-align: center;">622</td> <td style="text-align: center;">283</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④その他の便益</td> <td style="text-align: center;">44</td> <td style="text-align: center;">155</td> <td style="text-align: center;">88</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td style="text-align: center;">1,108</td> <td style="text-align: center;">1,616</td> <td style="text-align: center;">751</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td style="text-align: center;">712</td> <td style="text-align: center;">902</td> <td style="text-align: center;">318</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td style="text-align: center;">79</td> <td style="text-align: center;">97</td> <td style="text-align: center;">81</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③その他</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td style="text-align: center;">791</td> <td style="text-align: center;">1,000</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用便益比 (B/C)</td> <td style="text-align: center;">1.4</td> <td style="text-align: center;">1.6</td> <td style="text-align: center;">1.9</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			区分	主な項目	前 回	今 回 (再々評価)		備 考	(基準年：H29)	(基準年：R4)					全体事業	全体事業	残事業		便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	395	839	380			②農作物被害軽減便益	2	0	0			③公共土木施設等被害軽減便益	667	622	283			④その他の便益	44	155	88			総便益	1,108	1,616	751			費用 (C)	①事業費	712	902	318			②維持管理費	79	97	81			③その他	0	0	0			総費用	791	1,000	400			費用便益比 (B/C)		1.4	1.6	1.9			大項目 評 価 (A) ・ B ・ C
	区分	主な項目	前 回	今 回 (再々評価)		備 考																																																																																
			(基準年：H29)	(基準年：R4)																																																																																		
				全体事業	全体事業	残事業																																																																																
便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	395	839	380																																																																																		
	②農作物被害軽減便益	2	0	0																																																																																		
	③公共土木施設等被害軽減便益	667	622	283																																																																																		
	④その他の便益	44	155	88																																																																																		
	総便益	1,108	1,616	751																																																																																		
費用 (C)	①事業費	712	902	318																																																																																		
	②維持管理費	79	97	81																																																																																		
	③その他	0	0	0																																																																																		
	総費用	791	1,000	400																																																																																		
費用便益比 (B/C)		1.4	1.6	1.9																																																																																		
(3) 事業の進捗	事業の進捗と 今後の見通し	麦川大橋付近から上流へ約600mの区間の河川改修が完了し、洪水に対する防護機能が向上している。				大項目 評 価 (A) ・ B ・ C																																																																																
	事業の進捗	【事業費の変化】 有 (無) 【事業期間の変化】 有 (無)																																																																																				
(4) 代替案等の コスト縮減 の可能性	コスト縮減	背後地の土地利用や既設護岸の状況から、一部区間では片岸引堤として計画し、既設護岸を有効活用する。 発生土砂の処分については、周辺の公共事業と調整し、可能な限り流用することによりコスト縮減を図る。	中項目 評 価	a	b	大項目 評 価	(A) ・ B ・ C																																																																															
	代 替 案	代替案として「 ^{しょうすい} 捷水路※1 (バイパス) 案」や「遊水地案」などが考えられるが、経済性等の観点から、現計画の「河川改修案」は妥当である。	中項目 評 価	a	b	大項目 評 価	B ・ C																																																																															
3 環 境	配 慮 事 項	・河川内工事に際しては、汚濁の恐れがある場合は、沈砂池を設置し、汚濁防止対策を講じる。 ・低騒音・低振動の建設機械を使用する。																																																																																				
4 対 応 方 針	(事業実施主体案) 総 合 評 価	● 継続 ○ 見直し継続 ○ 中止																																																																																				
	評 価 理 由	事業の必要性、費用対効果等を勘案し、事業継続が妥当と判断する。																																																																																				
	備 考																																																																																					

【用語説明】

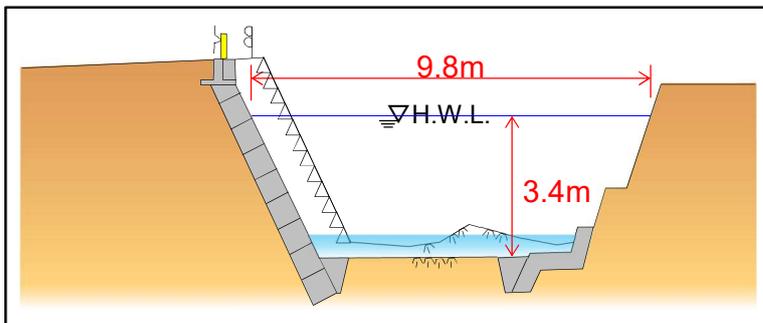
※1 捷水路(しょうすい)：河川の蛇行部や狭隘部に設けるバイパス河道のこと。類似施設に「放水路」があるが、捷水路はバイパス部の終点で同じ河川に合流させるのに対し、放水路は海や他の河川に放流するものを言う。

むぎかがわ
麦川川 広域河川改修事業



- 凡例
- 施工済区間
 - 未施工区間

標準断面図 (中麦川橋付近)



過去の浸水状況 (H15.7) 麦川保育園付近



この地図は、国土地理院の地理院地図(電子国土Web)の一部を掲載したものである。